プロポーザル審査委員会（第３回）会議概要・議事録

◇会議概要

〇開催日時：平成２４年３月１８日　１０：００～１８：３０

〇出席者：委員（林委員長、安達副委員長、赤司委員、上山委員、小松委員、坂本委員、篠原委員、仲委員、室﨑委員、田中委員）

事務局（池松総務部長〔議事１を除く〕、加藤参事監、永松県庁舎建設課長外）

〇会議次第

１．議事１　　(10：00～11：30)

（１）二次審査について

1）審査基準、二次審査の進め方

2）ヒアリングについて

（２）特定・非特定通知について

（３）公表方法について

1）記者投込等

2）議事録について

２．ヒアリング（13：00～15：50）（３者　各者共説明２０分、質疑応答２５分）

３．議事２　　(16：30～18：30)

（１）二次審査

1）意見交換

2）採点、集計

3）最優秀提案者、次点の決定

（２）講評について

〇審議結果

１．審議結果（議事１）

1）審査における各項目の評価の目処は、「Ａ評価は１者以内で、その他はＢ評価又はＣ評価であれば、同じ評価でも可」とする。

2）審査の進め方は、ヒアリング終了後、委員の意見交換を行い、委員の採点、集計を行う。二次審査及び一次審査の結果を集計し、最優秀提案者及び次点を決定する。集計結果の最多得点者とそれ以外の者との点数差が僅差（１００点未満）の場合は決選投票を行い、委員の過半の票を獲得した者に１００点を加算し、決定する。

3）ヒアリングにおける質疑応答の共通質問と個別質問の内容の確認、調整。

4）特定、非特定通知、公表は事務局案で了承。

２．審議結果（議事２）

1）最優秀提案者はＧ者とし、次点はＢ者とする。

2）講評の内容は各委員の発言を踏まえ、委員長一任とする。

◇議事録（議事１）（10：00～11:30）

事務局：本日は委員全員が出席しており、委員会は成立。

（１）二次審査について

1）審査基準、二次審査の進め方

事務局：第２回委員会で技術提案書の提出者を４者選定。選定後、うち１者が参加資格を喪失し、技術提案書の提出者は３者（Ｂ者、Ｃ者、Ｇ者）となった。二次審査の参考評価となる担当予定技術者の人数、手持業務量、参考見積額は集計表のとおり、これらの内容も勘案し、二次審査の４つの項目の内の視点１の評価をお願いしたい。

○二次審査（視点1の参考評価）集計表

項目		B者	C者	G者
1. 担当予定技術者の人数（工程動員計画）の妥当性	想定技術者数に対する割合	73%	138%	97%
	備考	本設計業務において県が想定した技術者数に対し、B者は少なく、C者は多く、G者は想定に近い。		
2. 手持業務量（繁忙度）（手持業務量を差し引き後の事務所の許容業務量に対する本業務量が占める割合）	繁忙度	1.2%	10.7%	2.0%
	備考	各者とも本設計業務が影響を受けない手持業務量。		
3. 参考見積額	参考見積額	３．５　億円	３．５　億円	３．８　億円
	業務規模*に対する割合	76.1%	76.1%	82.6%
	安価な順番	1	1	3
	備考	*業務規模：約4．6億円（プロポーザル説明書に明記） 各者とも一般的な委託業務の最低制限価格75%を上回る金額。なお、本設計業務はWTO対象であり、プロポーザル特定後の随意契約となるため、最低制限価格の設定はない。		

事務局：続いて、二次審査において委員が評価する３者の評価の目処をどうするか。事務局案は、「Ａ評価は１者以内、その他２者はＢ評価又はＣ評価。」であるが、これでよいか決定いただきたい。次に、評価後の集計結果が僅差となった場合の最優秀者等を決める方法。事務局案は、集計後の各者の差が１００点未満の場合は、決選投票を行う案。決選投票の

点数１００点の加算方法として、例えば、投票した委員が３人：７人であれば各々の者に１００点を比率分配して３０点と７０点を加算する案と、委員の過半数を獲得した者に１００点すべてを加算する案。これらを決定いただきたい。

委員長：審議事項は２点あり、１点目は、各項目の評価の目処。２点目は、決選投票のやり方。まず、１点目について、事務局案では、Ａ評価は１者以内、他の２者はＢ評価Ｃ評価と明確につけずともＢ評価とＢ評価、Ｃ評価とＣ評価と同じ評価になってもよいという案。

委員：「Ａ評価は１者以内」ということは、「０」でもよいということか。

委員：その方法では、例えばＡ評価１５０点、Ｂ評価１００点、Ｃ評価５０点とすると、計３００点だが、Ａ評価１５０点、Ｃ評価５０点、Ｃ評価５０点では計２５０点となり、各委員の持ち点が違ってもよいか。

事務局：Ａ評価がないとそこのウエイトが下がるため、Ａ評価は必ずつけるということでどうか。

委員：それは良い。個人的にはＡ評価は必ずつけようと思う。

委員長：最終的には差がうまくつければよく、辛い点を付けたい場合にそれがうまく反映されないこともあると思うが、それは議論する過程で、決選投票になれば反映できる。また、Ａ評価を無理につけることが厳しい場合もある。

委員：最終的に、決選投票という案もあり、その意味でも事務局案がよい。どの案も長短がある。

委員長：多様な意見があり、構造や設備などの複数項目を一つの評価にするなど難しい点はあるが、事務局案のとおり、Ａ評価は１者以内、その他はＢ評価またはＣ評価とする方法でよいか。

委員一同：同意。

委員長：２点目は、決選投票について。集計結果が僅差の場合、決選投票で１００点を投票者数に応じて加算する案と委員の過半数の投票を得たものに１００点すべてを加算する案があるが、いかがか。

委員：１００点を投票者数に応じて配分するのでは少ないかと思う。９０点程度の差の場合はほとんど影響がない。ディスカッションの後に評価をするか。

委員長：先に議論してから投票の予定。

委員：議論後の決選投票では、委員の投票者が多い方に１００点全部を与える方がよい。

事務局：何点以内の差があれば決選投票するかのラインの引き方と、与える点数の問題だと思う。今は全体の１割程度の差ということで１００点としている。

委員長：最終的には点数の問題でなく、どの者を選ぶか決めるので、委員の投票者数によって

点数をそのまま反映せず、過半の委員の投票を得た者に１００点を加算すればよいのではないか。

委員：それでよいと思う。

委員：委員の投票者数に応じた点数の配分では、最終的に決選投票の投票者数の少ない方が上になることも有り得る。委員会としての総意が大切だと思う。

事務局：補足として、次点を決める場合の２位と３位の決選投票の際は自動的に１位に１００点を加える。また、決選投票の点数は視点１の総合的な評価と位置づける案としている。

委員長：決選投票は、各者の点数差が１００点未満の場合に行い、議論後の決選投票の委員の投票者数が多い者に１００点全部を加える方法とすることでよいか。

委員一同：同意。

2）ヒアリングについて

委員長：ヒアリングの質疑の共通質問は私が行う。内容は①提案で一番大切にしている点は何か。②長崎県庁舎をどのように考えているか。③基本構想では行政棟以下３棟、あるいは４棟の各々の機能確保、また工事の分離発注を想定しているが、提案はこれらに対応できるか。の３点としたい。その後の個別の質問は、できるだけ専門の方がその専門の分野を質問するのが適切と思うので、質疑があれば、今から発言いただきたい。

委員：３者共通の質問、建物の固有周期を長くする免震構造において、長周期地震動をどのように考えているか聞きたい。

委員：３者共、省エネのために設備のコミッショニング（性能検証）を導入としているが、具体的な組織体制の考えを聞きたい。

委員：Ｇ者について、防災上、低層にするメリットはたくさんあるが、デメリットはどう考えているか聞きたい。津波の被害をどう考えているのか。

委員：津波のシミュレーションをやったのではないか。

事務局：東海、東南海、南海に日向灘での４連動地震を想定し、海溝に近い部分を含めたＭ９．０でシミュレーションを行い、過去の最大潮位時における津波高は、岸壁の高さを約３０ｃｍ超えるが、地面の水勾配等で敷地部分にはこない結果。

委員：それでだめでないが、完全に大丈夫と考える設計か、想定外も考慮する設計かを確かめたい。

委員：Ｇ者に聞きたいが、緑地や広場の管理において、提案している指定管理者の専門の団体と県民主体の運営組織や県民自らの手で管理することは、難しいことだと思う。ここをどう考えるか聞きたい。

委員：Ｂ者は、新しい技術をたくさん使うとし、エコウイングなどがどういうものなのか、素

材はどうかなどを聞いてみたい。

委員：エコウイングは、平常時はいいが台風などは大丈夫か聞きたいと思う。

委員：Ｇ者の長崎テラスは、県の働き方を踏まえどう生かせるかを聞きたい。

委員：Ｂ者は県都長崎再生と書いてあるが、長崎が壊れているか疑問。Ｃ者も長崎らしいと書いてあるが建物にどう反映されているかを聞きたい。

委員：ガラス建築は、設備やエネルギー的にはよくない。長寿命の内容を設計の中にどう盛り込むかはっきりしない。

委員：Ｂ者は、基幹設備を上に上げるとメンテナンスは可能か、Ｃ者は使用開始後にライフサイクルコストを下げる具体的な数値を示しているがどう下げるか。Ｇ者は、長崎テラスの運用と、県民に開かれた県議会の提案は、議会の静粛度をどう考えるか聞きたい。

委員：確認だが、これはプロポーザルなのでこのままの設計で建つわけでなく、選ばれた設計者が、設計段階である部分を外したり、抜本的な変更をしてもよいか。

事務局：プロポーザルは、あくまで設計案でなく設計者を選ぶ制度だが、いずれも細かい提案があり、最優秀提案者の技術提案を最大限生かしつつ、現実的な問題を含めて、設計着手後の協議により変わっていく。

委員長：今の内容を聞いていただき、その後は、時間の許す限り各委員から質問をお願いしたい。

（２）特定・非特定通知について

事務局：本日夕方、決定する最優秀提案者、次点、非特定の各々の者に特定、次点、非特定の通知を送付する。

（３）公表方法について

1）記者投込等

事務局:本日中にプロポーザル審査結果を記者投込と県のホームページで公表する予定。また、各者の技術提案書についても印刷などができないようにして、県のホームページで公表する予定。

2）議事録について

事務局：当初（第１回委員会）、議事録の公表は自由闊達な意見交換を阻害することのないものとしてご議論いただいたが、さらに、可能な限り透明性を高めることに配慮し、今回は委員氏名を含む議事録を公表する案をご協議いただきたい。なお、公表方法としては、前回（第２回委員会）の議論における、「各委員の意見と採点の表示方法は検討が必要」との意見を踏まえ、各委員の意見は、各提案に対する委員の意見と氏名を一覧として公表するものとし、点数は合計点数を公表する案とするが、各委員の採点した点数は非公表、最終審査で決選投票を行うことになった場合の各委員の投票も非公表とする案をたたき台とし、

ご協議いただきたい。

委員長：意見はあるか。

委員：事務局案でよい。

委員一同：同意。

委員長：それでは事務局案のとおりとする。事務局は議事録の作成時に、各委員にそれぞれの発言を確認していただきたい。

事務局：了解。

◇議事録（ヒアリング）（13：00～15:50）

各者に対し、別添１（６枚）のとおり、質疑応答がなされた。

◇議事録（議事２）（16：30～18:30）

（１）二次審査

1）意見交換

〇協議事項

委員長：最初に、先ほどのヒアリング時の質疑応答で、１者が自社の会社名を発言した件の取り扱いを協議したい。ヒアリング要項では自社の会社名を発言することを禁止しているが、その場合の取扱いは示されていない。このことが審査の公平さに影響を与える行為であったか否かが問題。「この件は、審査の公平さに影響を与える行為とはいえず、その JV を含め審査を進めていく。」ということでよいか。

委員一同：同意。

〇意見交換

技術提案に対し、各委員から別添２（３枚）のとおり意見が示された。

2）採点、集計

各委員が二次審査項目について採点を行い、その結果と一次審査の結果を合わせた集計表を作成。

〇審査結果集計表（暫定）

項　目	配点	B者	G者	C者
一次審査の合計	300点	283.3	270.4	246.1
二次審査の採点集計	600点	465.0	470.0	310.0
合計	900点	748.3	740.4	556.1
		7.9点差	184.3点差	

3）最優秀提案者、次点の決定

委員長：二次審査だけの集計ではＧ者が１位、一次審査と二次審査の合計ではＢ者が１位となった。午前中の審議で決めたとおりの審査方法によれば、Ｂ者とＧ者の差は１００点未満（７．９点差）であり、決選投票で最優秀提案者、次点を決定してよいか。また、Ｇ者とＣ者の差は１００点以上（１８４．３点差）あるのでＣ者の３位は決定でよいか。

委員一同：同意。

委員長：それでは、３位のＣ者は非特定で決定し、Ｂ者とＧ者のどちらを１位にするかこれから意見交換を行った後、決選投票を行う。決選投票は午前中の審議で決定したとおり委員の過半数の投票を獲得した者に１００点を加算することとする。

〇意見交換

決選投票に先立ち、各委員から別添３（１枚）のとおり意見が示された。

〇決選投票

委員長：意見交換では、Ｂ者、Ｇ者のそれぞれを評価する意見に分かれた。午前中の審議で決定した決選投票で決定する。いずれになっても、今後、基本構想とのすり合わせを行うこと、それからプロポーザルなので、案を取ったわけでなく、設計者を取ったという前提とする。それでは、Ｂ者とＧ者で最終的にどちらを選ぶか委員の挙手で決選投票を行う。

（決選投票）

・　Ｂ者を推す委員（２名挙手）

・　Ｇ者を推す委員（７名挙手）

・　棄権（１名）

委員長：決戦投票の結果、過半数を超える委員がＧ者を推し、Ｇ者の視点１に１００点を加えることとする。その結果、最優秀提案者はＧ者に決定し、次点はＢ者とすることでこの審査委員会として結論を得たということでよいか。

委員一同：同意。

委員長：では、それで委員会の総意として決定した。

事務局：委員会の審査結果は、Ｇ者が８４０．４点、Ｂ者が７４８．３点、Ｃ者が５５６．１点で、結論は、最優秀提案者がＧ者、次点がＢ者、Ｃ者が非特定という、審査委員会の結論をいただいた。

○プロポーザル審査結果（決選投票後）

項　目			配点	G者	B者	C者
一次審査の合計			300点	270.4	283.3	246.1
二次審査	特定テーマ（視点１）　様式Ⅳ、ヒアリング ①基本構想に掲げる基本理念を実現するための基本的な考え方（決選投票を含む）	・提案内容の独創性、独自性や魅力 ・所定の施設計画としての妥当性、現実性、技術的信頼性など ・担当予定技術者の人数、手持設計量及び参考見積額も勘案し、総合的に評価	250点	235.0	105.0	65.0
二次審査	特定テーマ（視点２）　様式Ⅳ、ヒアリング ②構造、設備計画の考え方 ③防災拠点整備の考え方	・提案内容の独創性、独自性や魅力 ・所定の施設計画としての妥当性、現実性、技術的信頼性など	150点	100.0	125.0	90.0
二次審査	特定テーマ（視点３）　様式Ⅳ、ヒアリング ④低炭素社会の実現の考え方 ⑤建築物の長寿命化とﾗｲﾌｻｲｸﾙｺｽﾄの考え方 ⑥オフィス計画の考え方	・提案内容の独創性、独自性や魅力 ・所定の施設計画としての妥当性、現実性、技術的信頼性など	150点	110.0	130.0	85.0
二次審査	特定テーマ（視点４）　様式Ⅳ、ヒアリング ⑦庁舎デザインの考え方 ⑧ランドスケープデザインの考え方	・提案内容の独創性、独自性や魅力 ・所定の施設計画としての妥当性、現実性、技術的信頼性など	150点	125.0	105.0	70.0
二次審査	二次審査の合計		700点	570.0	465.0	310.0
一次審査と二次審査の合計			1000点	840.4	748.3	556.1
最終順位				1位	2位	3位
結　果				最優秀	次点	

（２）講評について

事務局：最後にもう１件、本日発表予定の委員長講評として、本日発言いただいた意見をもとにＧ者、Ｂ者、Ｃ者の各々の評価のポイントや課題をまとめ、事務局で早急に整理して、委員長の最終確認後、公表する。

委員長：大変長い間、ありがとうございました。

事務局：委員長ありがとうございました。総務部長より閉会のあいさつをいたします。

総務部長：審査委員会での熱心なご審議の結果として、最優秀提案者を特定し、次点を選出いただいた。本日中に報道機関に公表する予定。県庁舎整備は、これまで長年にわたり議論され、さらに、昨年の東日本大震災を受け、安全性の検証などに時間を要したが、本日、具体的な一歩を歩み出すこととなった。今後は、県民とともに新しい時代を切り拓く県庁舎をつくっていきたい。今後もご支援をお願いしたい。本当にありがとうございました。

第３回委員会　ヒアリングにおける質疑応答（13:00～15：50）

①　Ｂ者発表　　（２０分）　内容省略

②　Ｂ者質疑応答（２５分）

委員	質疑	応答
林委員長 （共通質問1）	提案で一番大切にしている点は何か。	長崎の新たな「景」をつくりだすこと。長崎は歴史あるなりわいを続けてきたが、その上に新しい流れを重ねていく。この県庁舎が建てば、人々の動き、情報の動きが集まり広がる起点にしたい。
林委員長 （共通質問2）	長崎県庁舎をどのように考えているか。	県都長崎再生のきっかけとなる庁舎、県民サービス県民協働のための開かれた庁舎、防災と環境を統合的に高める庁舎、この3つを実現する。
林委員長 （共通質問3）	基本構想では行政棟以下3棟、あるいは4棟の各々の機能確保、また工事の分離発注を想定しているが、提案はこれらに対応できるか。	確実にできる。
安達副委員長	耐震安全性の質問。18階は長めの周期を持ち、さらに周期を長めにする免震層を用いているが、長周期の地震動をどう考えているか。	長周期の地震動の波を設定した中で、長周期もずらしていく設計を全体のフレームの中で考える。機能維持では東日本大震災でも免震構造の優位性は明らか。
赤司委員１	基幹設備の設置は上階だが、更新時に機器の入れ替えなどが可能であるか。	基幹設備の6階は、津波等の災害に対して上階の方が良いとの判断。大型機器はクレーン、小さい機器はエレベーターを使う。
赤司委員２	コミッショニングプロセスの実施の提案だが、その体制は。	コミッショニング自体は、第三者性の原則から設計監理業務とは別。コミッショニングに必要な計量計測ポイントを確保して、ベムス(ビル・エネルギー管理システム)で運用と運転管理者に情報を与える協力体制とする。
小松委員	エコウイングは、アイデアとしては面白いが、材質、将来的なメンテナンスや台風への対応、室内からの眺望や採光に対する影響は。	従来は煙突の上部につけて気流を誘引するものを、今回は縦型に使って大きな意匠的なポイントとする。素材は、未定だがGRC(ガラス繊維補強セメント)の中空をイメージ。台風対策は、建物の強度と同等にし、落下防止のワイヤーを別にしフェールセーフとする。眺望は、日射負荷の遮断のため東西面に付け、南側のサイドにはウイングは影響しない。
室﨑委員１	防災性能と環境性能の統合をどう考えるか。	インフラが遮断されても、自然採光や自然換気で最低限の機能を保有すること。
室﨑委員２	エコシャフトは環境面ではすごく良いが、火事が起きたら煙突になって延焼拡大が懸念され、その意味では対立かもしれない。そこはどう考えているか。	エコシャフトは、竪穴シャフトで区画し安全には十分配慮する。
上山委員	縁側のコンセプトと長崎の土地らしさの関係が理解できない。ご説明を伺いたい。パッシブデザインと謳ってあるが、これがパッシブデザインの解なのか。パッシブデザインではなるべくガラスを避けるが。	建物自体を公園の中につくりこむイメージ。連続性は、水辺の森の公園からの散策路をイメージ。子どもでも県庁の建物と言った時に、ひとつの絵が描ける、シルエットを与えたいと思い、この部分はガラスとした。開かれた県議会の象徴として、議場は透明感が多い材料。長崎テラスと尾上の縁側の断面は、水平と上下の方向に変化をつけた水辺空間をつくり、美しい山並みと水辺が一緒に見られることを意識。

委員	質疑	応答
篠原委員１	「県都長崎再生のきっかけ」には違和感がある。一番大切にしている点では「新たな長崎の景をつくる」と言ったが、今までの歴史の上に積み重ねるという話。そうなると長崎のまちの現状をどう考えるか。何の上に積み重ねるのか。	「再生のきっかけ」とは、「都市再生」と言うように、人口減や、観光客の減少などを含めて、もう一度前以上の活気を取り戻すという思いを込めた。何の上に積み重ねるかは、長崎は江戸時代唯一平戸とともに外国と交流があり、情報、人、物、事の結節点。ここに建物を造ることで、次の発展のための礎にしたい。
篠原委員２	このパースを見ると東京の臨海にあってもおかしくない。長崎の歴史をどう継承しているのかを聞きたい。	歴史を継承するのは形態のままの継承でなく、流れや動きなどを継承。長崎県産材の多用など、そういう動きを継承したい。整備されている美しいランドスケープと繋げていくことも1つ。
仲委員	民間オフィスの大きな傾向では、事務作業から知的作業へ変化があり、様々な工夫がされている。一方、役所の知的生産性は、民間と同じでよいか。役所の生産性をどう考えるか、生産性を上げるため役所の場合はどのような工夫が必要か、その工夫を実現するために建築で何を有するか。	官庁も協働化に向かう。組織横断、県民との協働というスペースを考えるとプロジェクト型、組織の中でプロジェクトのポイントができる執務形態が向く。民間と同じく、ある部分で密度が濃い部分と、自分ひとりで考える部分と、そんなメリハリができる時代がくる。従来で残る部分はあるが、接点を持ち職員が働ける提案とした。
坂本委員	交通計画。提案の図では、バス、タクシー、一般車両が一元的に集まっているように見えるが、車両の動線はどう考えるか。	そのことは当然考え、問題ない計画とする。
田中委員	エコシャフトやエコウィング、様々な防災上の提言、環境上の設備があるが、これらの様々な提案が基本構想で示した建設費の範囲内で確保できるか。	略算で試算した。行政棟、議会棟、駐車場棟で概ね２２０億、外構は概ね１０億、その他経費として５３億、（警察棟を含め）全部で３５０億強くらいの試算。その中で提案内容は試算に入っており、基本構想の建設費の範囲内で可能な計画。

③ Ｇ者発表　　（２０分） 内容省略

④ Ｇ者質疑応答（２５分）

委員	質疑	応答
林委員長 （共通質問1）	提案で一番大切にしている点は何か。	低層化による安全性が重要。
林委員長 （共通質問2）	長崎県庁舎をどのように考えているか。	通常の庁舎と違うのは抜群なロケーションで、観光客に対してきちっと応える空間をつくる。
林委員長 （共通質問3）	基本構想では行政棟以下3棟、あるいは4棟の各々の機能確保、また工事の分離発注を想定しているが、提案はこれらに対応できるか。	議会棟と行政棟が2つにできている。この他に駐車場棟があり、大きく4つに区分して発注ができる。元々工事自体はRC造で、特殊な技術がなくても、きちんとしたゼネコンが誠意を持って工事ができることで機会均等に区分ができる。
安達副委員長1	耐震安全性の質問。説明ではRCの純ラーメン、6階建てに免震層を入れる。免震層は周期を長くして、短周期の地震を免じるが、長周期地震動がきた場合に対する考えを。	免震層の位置は、駐車場の柱頭免震。免震層自体が水没しない。4秒台の長周期の免震構造で安全性がある。長周期の場合の問題はダンピングだが、これは低層なのでダンパー装置により安全にエネルギー吸収可能。低層の建物はホイッピングが起きない。なるべく自然な成り立ちで、安全なものをつくりたい。
安達副委員長2	ここには書かれていないダンパーも追加して考えると理解してよいか。 （応答後）あくまでも、本体を頑丈につくって、さらに免震の効果を増すというのが正論だと思う。	はい。超高層の免震はダンパーの位置が限られるが、面が非常に多いのでダンピングができる。今回の東日本大震災で学んだことは、免震構造の有効性。構造として強く、その中の物品が倒れないので事業を継続できる。庁舎の中で、いちばん重要なのは継続性を強めること。それから構造もそのお陰で少し軽微にできる。
赤司委員	コミッショニングプロセスの実施について、設備あるいは環境システムの性能評価に対して基本設計、実施設計の中で具体的にどういうことを現段階で構想しているのか。	自社は三次元設計に取り組み、設計時にシミュレーションできる。正確なコミッショニングは、自社でやると客観性がなく、第三者が入るべき。竣工後のコミッショニングが非常に重要。設計中、設計完了、運用後、中立な立場のコミッショニングの介在がよく、何でも設計事務所でやるというつもりではない。
室﨑委員	低層化は、防災的に多くのメリットが出てくるが、デメリットもあるのではないか。例えば、津波の予測では、科学は限界があり、倍半分の誤差があったり、川を遡上して上から回りこんで入ってくることもある。そうすると津波が入ってくるかもしれないことを考えているか。機械室・電気室、防災センターが1階に置かれているが、浸水の危険を考えなかったのか。	想定外に対して低層で備える。現状の想定に対しては全部上に置くことを徹底。津波が引いた後に耐圧路盤で十分使える。低層のデメリットは、都市部では、土地が限られ仕方なく超高層としたのが、いつの間にか良いものになった。長崎でこの土地にあり、この風景を見て、これを動かすものをやってはいけないと思った。デメリットはあるかもしれないが、その最大のデメリットの土地がなく仕方なくというデメリットがないので、今回はあえて徹底して低層とする提案とした。
篠原委員	「新しい観光の目玉にする」という話だったが、長崎に来る人の意識は、日本にないある種の異国情緒を求めて来ると思う。ここに来て、長崎に期待している観光になるか。例えば、他のところから来る人は、新しい魅力を加えることになるのか、期待しているものと違うのではないか。	ここでどんなに頑張っても、イミテーションにしかならない。きちんと誠実に。なるべく建物の存在を消すため丘にする。安全の象徴のバルコニーをきちんとつくることに徹した。新幹線の軸上に、グラバー邸、26聖人殉教地などが見え、これらを可視化する。庁舎は機能に徹し、黒子とし、最上階に観光センターをちょこっと乗せる程度。長崎では建物は引いて、丘と歴史的な風景を見せるべきと思い、批判を恐れずやってみた。

別添１　4/6

委員	質疑	応答
小松委員１	まずオフィスのプランがワンフロアで7,000㎡あるという話だが、コアが１個で、やたらに広いという感じがする。使い勝手はどうか。	私達自身が入っていたオフィスの長さが130m、幅40mであり、そのオフィスに入居した経験があることと、最近竣工したが、同じく長さが130m、奥行き23mのオフィスを実際につくった経験もあり、動線さえ確保されていればこのプランで絶対いける。 ※事例の説明にあたって自社の名前を発言したが、即座に謝罪した。
小松委員２	低層でアクセスがよく、ベランダが非常にいいと思う反面、セキュリティや管理の立場から死角がたくさんできる、それで、管理上、立入禁止区域ができるという実例がある。その辺の考えを伺いたい。	セキュリティゾーンはしっかり取る。休日の時には、ここだけ市民に開放できる。きっちり閉じるべきところは閉じるのが大事。
小松委員３	質問の意図は、犯罪の拠点になりかねない所が結構あり、それに対しては管理者が非常に神経を使い、本来は入りたい所が閉じられているケースが多々あるが、その辺の考えを。	一番メインでこの考えに踏み込めたのは、これに面して警察棟ができること。こんな安全なことはない。
上山委員１	「建築が黒子」は、画期的で大変結構と思う。ただ、この外回りの管理で「指定管理者云々、県民自ら」とかの説明だが本当に可能か。そのシステムはどう考えるのか。	水捌けのいい土をつくって雨水の循環をつくることが大事。そこに芝生を植えず、毎月刈り込む植栽でなく、路盤の舗装もうたずパンパス（ヨシ）を植える。１０年後、ここに広場がいいとなれば、パンパスを刈ってそこに路盤を広げて、おくんちのための広場を広げられる。作り込めることが大事。完成が終わりでないことで、「原っぱ」の表現を使った。
上山委員２	時間軸に対応しフレキシブルにつくる考えは大変いいが、この空間は本当に長崎が求めているものかを考えた上で、市民の意向に対応できるキャパシティを持つか。その意思は。	あると信じる。
仲委員１	長崎テラスという積極的な提案、上手くすれば執務室との相乗効果で良いものになるが、一方で県の働き方とは大分遊離する。そこの調整が大事。調整の道筋にイメージはあるか。現在プログラミング作業中で、県とコンサルが、建物の機能を一生懸命議論している。そこで出るものと設計者が考えるものが違う可能性があるが、そこをどう考えるか。	プログラミング調査は数値的な押さえを行うが、一方で働き方もある。実際に設計に関われたら、最初にどう働いているかを見て、持ってくる機能をきちっと考える。このことは非常に重要で、普段オフィスを設計するときにもそうする。そういう調査を行う。2週間あれは雰囲気が分かる。それをプログラミングの調査と合わせればできる。長年オフィスの経験があり、その自信はある。
仲委員２	2週間ずっといることが可能か。	管理技術者は難しいが、担当は置ける。それを我々が一緒に分析。邪魔だと言われない限りやりたい。多少一方的な提案で、様々な局面で指導を受け、柔軟に対応したい。このチームは全国的な経験事例を踏まえ、九州にもしっかりしたメンバーを置き、県とも地元のJVともコミュニケーションを図りたい。
田中委員	3棟独立の庁舎にするという基本構想。理由は必要な機能、分離発注、将来の行政ニーズということだが、本会議場は独立できるという説明だが、議会の機能が行政の執務室の下に入っているのではないか、これは独立可能か。	可能。執務室の下に入れているが、ここで明確に切れるように作っている。議会棟はこの三角形の部分の下なので、こう切ってさらに庁舎も必要により二つにこのくびれている部分で分けられるという工夫をしている。

⑤ Ｃ者発表　　（２０分）　内容省略

⑥ Ｃ者質疑応答（２５分）

委員	質疑	応答
林委員長 （共通質問1）	提案で一番大切にしている点は何か。	県庁が新しい時代に向けて一つの枠組みが変わるという認識。県庁施設が県を主張するより、現在、環長崎港として整備中の全域で敷地を位置づけ、それがネットワークで広く多面的に県民に親しく接する方がよいため、敷地全体を統合するデザイン、それが一つの県庁に対するあり方と考えた。
林委員長 （共通質問2）	長崎県庁舎をどのように考えているか。	長崎そのものを県の外、県の中の人たちと一緒に話し合いながら一つの県庁の庁舎像をつくることが、最も大事で今回のチームを組み、議論しながら新しい県庁のつくり方を考えたい。
林委員長 （共通質問3）	基本構想では行政棟以下３棟、あるいは４棟の各々の機能確保、また工事の分離発注を想定しているが、提案はこれらに対応できるか。	一部ランドスケープが全体を覆う提案だが、それぞれの施設が分離でき、構造をふまえ独立した形で建設が可能。
安達委員	この建物は１８階で周期が長いが、免震層を設け周期を長くしているが、長周期地震動にはどのように対処するか。 （応答後）３つが緊結することは分かった。	新しい防災拠点は、建物は壊れないだけではなく、そこでの活動維持のため免震を採用。免震は揺れを減らすが、長周期に対しては弱い部分が出るため、提案では、ダンパーをバランスよく配置し揺れを減らす。二つのウイングの形は、各々がきちっとした形で、三角形をつなぎ非常にバランスの良い建物。その特性を生かしチューニングしたい。
赤司委員１	ライフサイクルコスト、エネルギーを大幅に削減とあるが、それには運用段階はその時点での実施が必要、それを可能にする設計が必要となるが、コミッショニング、性能検証をどうするか、設計の中でどう想定しているか。	庁舎の一時エネルギーを抑えるには、断熱、外断熱を含めた熱負荷をとることや、自然エネルギーの有効活用も大事だが、それ一つでは解決できず、実際の庁舎運用に合わせたチューニングをしないと、実際は減らない。例えばベムス(ビル・エネルギー管理システム）やさらに進んだビームスの採用を考慮したい。
赤司委員２	設計と運用は違うが、元々の設計が削減をやる設計になっている必要があり、その検証をどう行うかを聞きたい。体制や視点とフォローアップ、実施方法や利用方法をどう考えるか。	特に熱源の運転をきちっとする。設計内容もそうだが、１０年のフォローアップを考えたい。
小松委員	外構の勾配の多用は、あまり快適な空間でないとの懸念を持つが、勾配をどう考えるか。また、この庁舎の正面はどこか。さらに、警察棟ができているが、デザインがどうなるかは警察棟の担当の判断になり、この絵の通りにはならないと思うが。	スロープでは、「坂んまち広場」はイベントができるフラットな部分がある。中心から、色々アプローチできるスロープを設け、勾配は１５分の１程度のまちづくり条例の範囲内で対応。幅員はおどり場を設け、バリアフリーに対応。建物の形態として正面をつくらず、広場に向かって開いて、それが県民とつながる。警察棟は、敷地全体の中で個々の建物がぶつかり主張するより、ランドスケープの全体で統合をイメージ。当然、警察棟は様々な要件があり、その段階で全体調整をはかる。

別添１　6/6

委員	質疑	応答
篠原委員	「坂んまち広場」のアイデアはすごくいい。しかし、長崎は坂が多くて街の特色だが、それは地形の必然性がある。今回の場合、水平でないところに変な空間ができ、観光客なら面白いが、日常的な利用では坂になる必然性が納得できない。	長崎で親しまれている、必然性がある坂の街「坂んまち」と連続する体験・体感を県庁舎に持ち込み、長崎の風景と連続する庁舎を作りたい。駅から入って、女神大橋に向かってスムーズに降り、同時に右には庁舎があり、上がると議会棟があり、議会棟の上は屋上ガーデンで、スムーズに上がることで、長崎を体感し、いろんな眺望を楽しめる。
上山委員１	港全体のランドスケープをここで集約するという意図は非常にいいが、最初の提案（参加表明段階）では「坂んまち」といって、両方に坂が上がっていた。それには県庁舎はなかったが、今回の提案では、県庁舎が強く存在を主張した形で表現され、最初のイメージとは違うが。	県庁舎の機能を積み上げると面積と敷地の関係が出てきた。全体のランドスケープの中で大きなマスを感じない方法を議論したが、絶対面積は積み上げざるを得なかった。低層にすると、１階の面積、建ぺい率が大きくなり、県民の利用が限られる。例えば、１０階や１４、１５階でも同じ。今までの環長崎港全体のオープンスペースの考え方が少し閉鎖的になるので今回の案とした。それぞれの長崎の面が大事で、面に対しては威圧感のない形を今後模索し、ランドスケープとより緊密な関係をつくる。
上山委員２	一番真ん中の出島を意図している形だが、そこで駅とつながるのか。	そのとおり。
坂本委員	県民が自由に活動できることと、県民と共には少し違うと思うが、県民と共にという部分のコンセプトはどのように盛り込まれているのか。	敷地全体は少し公園的で、県民や観光客をJRから直接導入すると交流が生まれる。今までの県庁舎は、構えが強すぎて県民は入りづらいが、今回は広場側に出島ワークプレイスをひらき、外から見て県民の動きが見えて、親しむ雰囲気が生まれ、県民と職員が同時に政策をあみだす場となると提案した。
室﨑委員	防火計画では、執務空間のオフィス部分を開放的する提案は、中のボイドが職員の働いているところは壁で見えないが、廊下とデスクの間だけ開放か。それから、どのラインでシャッターが下りてくるのか。	開放ゾーンは、エコボイドは竪穴で、区画は執務室との間で区画。ただし、ここをシャッターか、壁か、ガラスの区画かは今後パターンを想定するが、完全に空気がつながるという形はとりにくく、その場合にはシャッターを置くか、出口を分ける。
田中委員１	１階、２階の使い方で、２階が機械室だが、それだけで全部埋まるのか	１階は主に県民ホールと、西側にはバックゾーンが相当な面積として必要。行政棟の２階は機械室がメイン。基準のフロアの見通しは、非常に近い関係でビジュアルにつながる。
田中委員２	執務室の形は3分割されるが、全体の見通しや業務の一体性はどの様に考えるか。	執務室は、整形な形で、非常に近い動線と近いビジュアルな目線がとれ、非常に利用しやすい空間になる。

第３回委員会　技術提案に対する各委員の意見（意見交換）

技術提案者	意見	委員
B者	**◇視点1に関する意見：特定テーマ①**	
	技術的なレベルは高く、現実的に実行可能な提案を行っている。	林・上山・篠原・室﨑
	新たな固有名称が多く分かりづらい。コンセプトの掘り下げが不十分である。	坂本・篠原
	長崎テラスと庁舎、議会棟、警察棟、駅デッキの動線計画は上手くできている。	篠原
	まちづくり、県民交流、防災、環境と庁舎計画の視点が反映されている。	田中
	◇視点1に関する意見：担当予定技術者の人数、手持設計量及び参考見積額に関する意見	
	担当予定技術者が3者中最も少ないのは、自社で既に保有している技術の応用で省力化ができるためと思われる。	小松
	各者の参考見積額で評価に差をつけるのは困難。	仲
	参考見積額については、問題なし。	室﨑
	◇視点2に関する意見：特定テーマ②、③	
	免震構造は建物の固有周期を長くするため、長周期地震動に配慮を有する。	安達
	想定外の事態についてよく検討されている。	室﨑
	様々な災害への対応が検討されている。	田中
	災害時の緊急対応のための動線とスペースが適切に確保されている。	室﨑
	エコウイング、エコシャフトについては台風や火災に対する対策が明らかでない。	室﨑
	◇視点3に関する意見：特定テーマ④、⑤、⑥	
	エコウイングは長期的にうまく機能するか疑問である。	林・上山・小松・篠原
	環境負荷を削減する形態としては良いが、ガラスを多用しているのはマイナス要素である。	林・赤司
	コミッショニングの考え方は良い。	赤司
	将来的に余ったフロアを賃貸化できる提案は良い。	小松
	組織横断的な働き方やプロジェクト単位の働き方を想定した空間構成は評価できる。	仲
	空間のゾーニングがやや画一的であり、現実の多様性とのギャップが危惧される。	仲
	◇視点4に関する意見：特定テーマ⑦、⑧	
	広場や庁舎のデザインの魅力や新しさ・独創性に乏しい。	林・赤司・上山・小松・仲・室﨑
	ランドスケープはこの土地に合っていない。直線の連続がいいのか疑問である。	上山・坂本

別添２　2/3

技術提案者	意見	委員
C者	**◇視点1に関する意見：特定テーマ①**	
	「すりばち」、「坂んまち」は魅力的なコンセプトだが、それを表現できていない。	林・赤司・坂本・篠原・室﨑
	坂をつくることの実用性は疑問である。	田中
	ランドスケープ的には無理のない解であるが、建築との違和感がある。	上山
	構造的な平面形態の制約から配置が上手くいっていない。	小松
	県民ホールは人が集まりやすい良い位置である。	篠原
	◇視点1に関する意見：担当予定技術者の人数、手持設計量及び参考見積額に関する意見	
	担当予定技術者が3者中最も多いのは、自社にノウハウがなく新規に取り組む課題が多いためではないかと思われる。	小松
	各者の参考見積額で評価に差をつけるのは困難。	仲
	参考見積額については、問題なし。	室﨑
	◇視点2に関する意見：特定テーマ②、③	
	必要なことは考えられているが、一般的なものにとどまっている。	林・室﨑
	免震構造は建物の固有周期を長くするため、長周期地震動に配慮を有する。	安達
	◇視点3に関する意見：特定テーマ④、⑤、⑥	
	執務室のバリエーションに新しい働き方の可能性が感じられない。	林・仲
	コミッショニングに対する理解が不十分である。	赤司
	コスト縮減、ランニングコスト縮減、ライフサイクルコストの縮減の説明が合理的で適切である。	坂本
	出島ワークプレイスと執務スペースとの関係が希薄であり、折角のゾーニングが生かせていない。	仲
	エコボイドの両側に執務スペースが配置されているが、廊下に接しており、折角の活動の可視化を弱めている。	仲
	◇視点4に関する意見：特定テーマ⑦、⑧	
	デザインが一般的である。	林・赤司・篠原・仲・室﨑
	外構のスロープ多用については疑問が残る。	赤司・小松
	景観の考え方は良く、参加表明書の案では可能性大であったが、技術提案書の案では建築が強く主張しすぎている。	上山
	建物形状のV字（西側を絞り、東側に開く）の案は周辺とのバランスが良い。	坂本・篠原

技術提案者	意見	委員
G者	**◇視点１に関する意見：特定テーマ①**	
	未来志向的で、これからのあり方についてよく考えてある。	林
	長崎を名所とするために、建物をあえて黒子とした事を評価したい。	上山
	草原と長崎らしさとの関連が不明瞭である。	坂本
	コンセプトの掘り下げが良くなされ、「県民とともに」、「環境共生」の理念が分かりやすく実現されている。	坂本
	建物の中でも外でも憩える場所の提案がある。	篠原
	場、空間の多様性（個性のある空間）とフレキシビリティの双方を実現していることは評価できる。	仲
	議会棟の独立性がわかりにくい。	田中
	◇視点１に関する意見：担当予定技術者の人数、手持設計量及び参考見積額に関する意見	
	担当予定技術者の人数が標準的であるのは、新規の技術開発的な要素がなく、一般的な設計体制で可能であるためと思われる。	小松
	参考見積額における3千万円の差は、委託業務全体からみると誤差の範囲と考えられる。	小松
	各者の参考見積額で評価に差をつけるのは困難。	仲
	参考見積額については、問題なし。	室﨑
	◇視点２に関する意見：特定テーマ②、③	
	中央部の採光、節電計画、空調計画に問題点がある。	林
	免震構造は建物の固有周期を長くするため、長周期地震動に配慮を有する。	安達
	低層でまとめたことは、防災上もメリットのある提案として高く評価できる。	室﨑
	想定する災害のイメージがややあいまいである。	室﨑
	◇視点３に関する意見：特定テーマ④、⑤、⑥	
	低層提案のメリットは魅力がある。	林・上山
	コミッショニングの考え方は良い。	赤司
	環境負荷が非常に少なくなる提案をしている。	赤司
	長崎テラスの活用や執務室の効率性など、平面計画については検討する必要がある。	小松・田中
	大きな平面計画とゆとりのある階段で繋がった縦横につながる空間は、全体の一体感の醸成や部門間連携に有効である。	仲
	ながさきテラスは、部門間の連携、県民との共同に有効であり、機能を特定しない空間構成は新たな可能性を開くものである。	仲
	◇視点４に関する意見：特定テーマ⑦、⑧	
	原っぱの維持管理には疑問がある。	林・赤司・上山・篠原・室﨑
	外観デザインやランドスケープに関してはさらなる検討が必要である。	林・上山・坂本
	技術力やデザイン力など、今後の設計を行うための十分な能力を備えている。	赤司・小松・篠原・室﨑
	環境共生の新しい建築は評価する。	上山・坂本
	港の風景が引き立つ提案である。	坂本

別添３

第３回委員会　決選投票に先立つ意見交換における各委員の意見

技術提案者	意見	委員
B者	◇提案の内容に関する意見	
	外観デザインについては、うまい指導のやり方をすれば、質の高い、印象的な建物になると思われる。	林
	ランドスケープは魅力がない。	上山
	提案された建物はどこにでもあり、あまり面白くない。	小松
	建物と広場は外観デザインの魅力が乏しいだけではなく、憩える場所がない。	篠原
	◇提案の実現性に関する意見	
	行政棟と議会棟の区分は、各々の独立性が明確である。	林・田中
	現実的なところまでまとまった提案である。	小松
	エコウイングは技術として完成しているわけではなく、相当変わることが予想される。無くなる可能性もある。	小松
	言っていることと内容が伴っており、実現可能な案である。	坂本
	◇チームの体制等に関する意見	
	構想力はあるが、デザイン力にやや不安を感じる。	仲
	グループの中に誰かアドバイザーや監修を入れると良くなると思うが、今の体制では良くなるか疑問である。	仲・上山・小松
技術提案者	意見	委　員
G者	◇提案の内容に関する意見	
	建築計画は低層が魅力である。	林
	ランドスケープは長崎らしくないが、質疑応答で市民の声に耳を傾けるとの回答があった。	上山
	誰もやったことがなく、この敷地だからできる提案である。	小松
	現状の働き方から大胆な変革を前提とした案である。	仲
	◇提案の実現性に関する意見	
	外観デザインは本当にこんなに綺麗なものになるか疑問である。	林
	議会棟を分離発注できるかわかりにくい。	林・田中
	質疑応答で議会棟の分離発注は可能であるとの回答があった。	室﨑
	将来の可能性に期待できる。話題性がある。	小松
	◇チームの体制等に関する意見	
	課題解決に十分対応できるチームの体制と思われる。	小松・仲
	プロポーザルなので、発展可能性は重要である。	篠原
	多額の費用をかけて建てる建物、かつ、100年建つ建物であるため、苦労は伴うかもしれないが、到達点としていい方を選ぶべきと考える。	仲